

## 【トルコリラ】 米金利上昇と経常赤字拡大を警戒

	直近1週間のレンジ	今後1週間の予想レンジ	今後3ヶ月の予想レンジ
トルコリラ/円	27.99-28.66円	27.50-29.00円	27.00-31.00円

トルコリラは、1リラ=28円台前半まで軟化する展開になった。対ドルではほぼ横ばい推移が続く中、円高要因でリラ/円相場は若干下押しされている。リスク投資環境の悪化、米長期金利上昇などがリラ相場の上値を圧迫するも、新興国通貨を本格的に売り込むような動きまでは見られず決定打を欠いている。2月14日に発表された12月经常収支は77億ドルの赤字となり、11月の43億7,500万ドル、市場予測75億ドルを上回る赤字が計上されている。米長期金利でファイナンスコストが上昇する中、こうした経常収支赤字の動きはリラ相場に対して強力なネガティブ材料になるが、現段階では大きな値動きには発展していない。

米金利上昇圧力が強まる中、リラ相場は比較的厳しい環境にある。これまでは低金利環境で新興国が抱える問題は隠されていたが、ここに来て米金利上昇圧力が強まる中、特に経常収支環境からトルコ経済のリスクがクローズアップされ易くなっている。ドル安環境にあって大きな値崩れまでは想定されていないが、他新興国通貨との比較ではリラ相場の上値の重さが目立つ状況になっている。目先は重要経済指標の発表が集中するため、その結果次第ではリバウンドリスクも高まる。ただ、リラ市場においては米金利上昇圧力に対する警戒感が高まる中、現在の金利上昇圧力が維持されると下振れリスクが高まる。

テクニカルでは、一目均衡表の基準線 (28.84円)、転換線 (28.65円) を完全に下抜いており、同水準が抵抗線になる。一方、下値は昨年12月安値を下抜いており、28円台を完全に割り込むと下げがエスカレートする可能性が高まる。サイコロジカルは、前週の5勝7敗から変わらず。14日RSIは35.19。

### 注目イベント

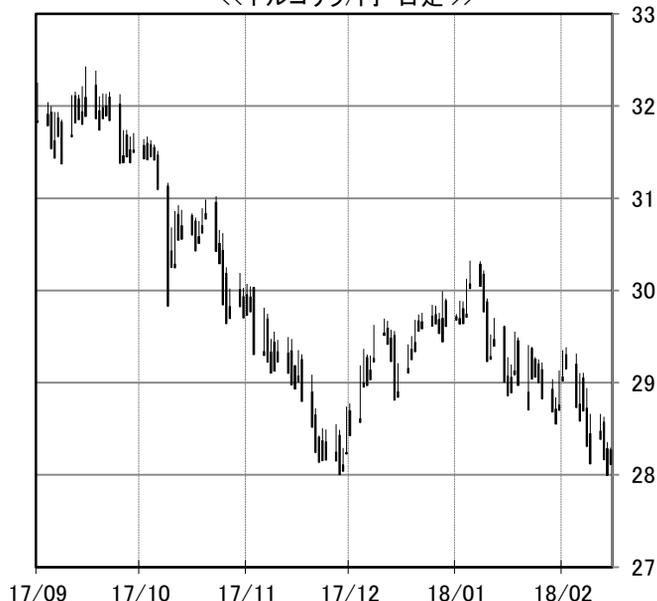
#### 【トルコ】

- 02/15 (木) 11月四半期失業率
- 02/15 (木) 1月財政収支
- 02/20 (火) 2月消費者信頼感
- 02/22 (木) 2月製造業信頼感

#### 【日本】

- 02/14 (水) 10~12月期GDP
- 02/15 (木) 12月機械受注
- 02/15 (木) 12月鉱工業生産
- 02/19 (月) 1月貿易収支

<<トルコリラ/円 日足>>



## 注意事項

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。

本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。

本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。

本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

## 発行会社

- 【会社名】 マーケットエッジ株式会社 (Marketedge Co., Ltd.)  
【所在地】 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-18-1 (古川ビル4F)  
【URL】 <http://www.marketedge.co.jp/>  
【電話】 TEL : 03-6661-9498 【E-mail】 [info@marketedge.co.jp](mailto:info@marketedge.co.jp)

### 【執筆者プロフィール】

マーケットエッジ株式会社 代表取締役 小菅 努 (こすげ・つとむ)  
1976年千葉県生まれ。筑波大学卒。商品先物取引会社の営業本部を経て、同時テロ事件直後のニューヨーク事務所にてコモディティ・金融市場の分析を学ぶ。帰国後は調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社代表に就任。商品アナリスト・東京商品取引所認定（貴金属、石油、ゴム、農産物）。

E-mail: [kosuge@marketedge.co.jp](mailto:kosuge@marketedge.co.jp)

Twitter @kosuge\_tsutomu